

第6507回Q Cサークル大会 第17回小集団改善活動若鮎大会

体験事例発表 講評用紙

2023年10月27日

発表No. 202	弁理士法人オンダ国際特許事務所 健康経営はじめ隊サークル殿
<p>講評のチェックポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テーマの選定 ・ 問題解決の進め方 ・ 手法の使い方 ・ 技術技能の向上 ・ サークル(メンバー、リーダー)の成長 ・ 運営の工夫 ・ 創造性 	
<p>テーマ：健康経営の意識改革 ―働きやすい会社づくり―</p> <p><感想>：総務部として社員の方々が健康管理に対しての意識を如何に向上して頂けるかを狙いとして、様々な視点から働きかけをされましたが、残念ながら目標未達となってしまった事例でした。しかしながら、社員の皆様に対して健康でいて欲しいという温かく思いやりの伝わる活動が出来ていたと感じました。</p> <p><良かった点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目標未達ではありましたが、職場のコミュニケーションUp出来た事は、会社にとっては大きな成果だと思います。コミュニケーションが更にUpしていけば、目標未達であった内容も次第に良くなると思います。 ・ 「Pepup」：健康状態を可視化し、楽しみながら健康知識が身に付くツール初めて知りました。よい勉強になりました。ありがとうございました。 「QCサークル」「Pepup」と、2つのツールを使いながらの活動で続けていってほしいと思います。 ・ 自社のホームページ「so-mu café」を上手く活用して読みやすい情報発信をするなど細かなところまで気を配った活動が出来ていました、健康経営優良法人2023認定おめでとうございます！ ・ ウオークイベント開催計画にあたり、経営層の会議において承認を得た事など、自分達の思いを強く表す事で経営層の意識改革が出来た事は大きな一歩に繋がっていると思います。 <p><今後の活動に向けたアドバイス></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 健康に対する意識調査をアンケート方式で社員の方々に実施されましたが、何名の方に実施され153名からの回答を得たのかを回収率として把握され効果の確認時も回収率を出して比較するのも健康に関しての意識改革の一つの指標になると思いますので把握された方が良いと感じました。 ・ 対策が社員に方々に発信するという投げかけが多く少し一方通行になっていた様に思います。投げかけた後、社員の方々から、どんな意見が出てきたか等を集約して活動に活かしていけば今後に向けて、社員の方々の健康意識の向上につながると思います。ぜひ、社員の方々の貴重な意見を生かして欲しいと思います。 	
<p>上司の方、推進事務局の方へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 健康意識の向上は個人個人の問題であるので、「私はまだ若い」「私は健康で病気ひとつした事が無い」という人は、なかなか健康意識を持ってくれないと思いますので、今の内から何か行動出来るような方向にもっていけるといいなと思います。 	
講評者氏名 西秋 幸之	電話番号 0584-43-5121
連絡先(勤務先・所属) 株式会社 オーツカ 総務部 兼 Q C C 推進室	

※この講評用紙は事前に頂きました報文集にて記載しております事ご了解お願い致します。

第6507回 Q C サークル大会 第17回小集団改善活動若鮎大会

体験事例発表 講評用紙

2023年10月27日

発表No. 204	カヤバ(株)北工場 梶子(くちなし)サークル殿
<p>講評のチェックポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テーマの選定 ・ 問題解決の進め方 ・ 手法の使い方 ・ 技術技能の向上 ・ サークル(メンバー、リーダー)の成長 ・ 運営の工夫 ・ 創造性 	
<p>テーマ : <u>複合R形状部の測定方法確立</u></p> <p><感想> : 極めて精度の高い測定を求められる仕事をされている中で、「測定誤差」「測定工数」に注目し、より精度の高い測定方法を確立された上に、全拠点にも横展開され、カヤバ全体の測定方法となり、会社にとって宝となる活動をされた事例でした。</p> <p><良かった点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テーマの選定については、上位方針に基づいている。また、「定例会」の課題に上げられている点を明確にした上で選定になっていて、やるべき問題である事がよく分かる選定になっていました。 ・ 要因の検証はよく行いますが、改善案を検証はなかなかしませんね。この検証を行う事により対策の実施項目を確かなものに絞り活動を行った事により大きな成果に繋がったと思います。 ・ 他社のやり方の応用や、他部署(品証)との連携など、自サークルだけでなく上手く協力頂きながら活動をして成果につなげていました。 ・ データの不正防止など、危機管理がしっかりと出来ている点は、会社の信頼につながる活動でした。 <p><今後の活動に向けたアドバイス></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目標設定までは問題解決型で、改善案の立案からは課題達成型で進められています。どちらで進めるかや途中で変更される事に何ら問題はないのですが、現状把握を見ると問題点が出てきているので問題解決型で進めても良かったのではと考えます。 ・ 「BG構造」「仮想点」「自立做い機能」などの、言葉について、用語説明を入れて頂く事により聞いている方々が活動の内容をより深く理解して頂く事が出来たと思います。 	
<p>上司の方、推進事務局の方へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 形式にこだわらない活動で進めて頂いて結構ですが、QCサークル活動は改善の為の道具です。問題解決型や課題達成型の基本を十分理解した上で活動出来るようご指導をお願い致します。よく言われる、「守・破・離」まずは、守(型を守る)事を実行して下さい。 	
講評者氏名	電話番号
西秋 幸之	0584-43-5121
連絡先(勤務先・所属) 株式会社 オーツカ 総務部 兼 QCC推進室	

※この講評用紙は事前に頂きました報文集にて記載しております事ご了解お願い致します。

第6507回 Q C サークル大会 第17回小集団改善活動若鮎大会

体験事例発表 講評用紙

2023年10月27日

発表No. 206	(株)前田精工 SPECTERサークル殿
講評のチェックポイント <ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 33%; margin-right: 3%; margin-bottom: 5px;">・ テーマの選定 <li style="width: 33%; margin-right: 3%; margin-bottom: 5px;">・ 問題解決の進め方 <li style="width: 33%; margin-bottom: 5px;">・ 手法の使い方 <li style="width: 33%; margin-right: 3%; margin-bottom: 5px;">・ 技術技能の向上 <li style="width: 33%; margin-right: 3%; margin-bottom: 5px;">・ サークル(メンバー、リーダー)の成長 <li style="width: 33%; margin-bottom: 5px;">・ 運営の工夫 <li style="width: 33%; margin-bottom: 5px;">・ 創造性 	
テーマ : トリミング工程における 自動トリミング機の設備効率の向上 <感想>: このテーマでは、トリミングラインの投入機に絞りチョコ停撲滅のために、問題解決型で取組まれた事例でした。聞かせて頂き感じた事は、特に要因解析のステップに重点を置かれ真の要因に辿り着くまで粘り強く解析、検証された印象を受けました。 <良かった点> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現状把握で、元データを深掘りして真の原因に辿り着いていて、その真の要因に対し次のステップの目標設定及び要因解析に上手く反映している。つながりがよく分かりました。 ・ 要因検証を、現地・現物・データなどを活用した結果、無駄のない的を得た対策が実施されている点は今後の作業負担軽減活動に大きく貢献できると思います。 ・ Q C手法を活用しレベルアップを図る狙いの元、今回のテーマで10種の手法が使われていました。数を使う事が良いという事ではないですが、実際に使う事がで理解が深まる事に繋がります。 ・ 活動計画では、全員参加を目標に全員にステップリーダーを任命して計画されている点は、各メンバーの意識づけには良い方法で進められている。 <今後の活動に向けたアドバイス> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4つの重要要因を抽出されていますが、この要因に決めた根拠が分かりづらい為、例えばマトリックス図を使用し評価すると何故この要因が重要だと判断できます。 ・ 改善前も改善後も、吸着パッドの清掃頻度は1回/週となっていますが、清掃方法を変えても異物付着は変わらないのかも調査し、少なくなっているのであれば、作業負担軽減の為に点検頻度を見直す事も視野に入れられると良いかと思えます。 ・ テーマ選定理由でのグラフには「時間稼働率」があったので、効果の確認時も同じグラフを使い、「時間稼働率」はどう変化しているかも把握すると良かった。 ・ 吸着パッドに異物が付着し吸着が弱くなっているとありますが、どの位の異物があると吸着圧はどの位変化するのかを検証してみても良かったのかなと感じました。 	
上司の方、推進事務局の方へ <ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の活動において、Q Cストーリーの有効性を感じたという事は、活動をやって良かった。と感じ、大きな達成感を持たれた事と思えます。今の気持ちを忘れずに継続的な改善を進めて頂くところをお願いしたいと思います。 	
講評者氏名 <div style="text-align: right;">西秋 幸之</div>	電話番号 <div style="text-align: right;">0584-43-5121</div>
連絡先(勤務先・所属) 株式会社 オーツカ 総務部 兼 Q C C 推進室	

※この講評用紙は事前に頂きました報文集にて記載しております事ご了解お願い致します。

